

「救い主に出会う道」
マタイの福音書 2章1～11節

今朝は、クリスマス礼拝です。コロナの影響で、今年は世界のどの教会もいつもと様変わりした礼拝になっていることでしょう。さてマタイによる福音書2章1節から11節を読み、「救い主に出会う道」について学んでみましょう。

使徒マタイは、イエス・キリストが誕生なさったとき、東方の博士たちが幼子を礼拝しに来たことを語っています。ここから、今朝は、「救い主に出会う道」「どうしたら救い主に出会えるのか」を考えてみましょう。

ここには、博士たちを導いた星（一般啓示）、神のみことば・聖書の預言（特殊啓示）、救い主との出会いと礼拝が語られています。

1. 博士たちを導いた星・一般啓示（2）。

初めに、東方の博士たちが星に導かれてエルサレムにやって来た事が記されています。

（1）東方の博士たち。

「イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき」とありますが、イエス様の誕生については、ルカが詳しく記しています（ルカ2章）。

「東方の博士たちがエルサレムにやって来た」とありますが、「東方」とは、アッシリア、バビロン、ペルシャを指します。アッシリア、バビロンは、今のイラク、ペルシャはイランです。

「博士」は、「マギ」と呼ばれる人たちで、哲学、薬学、自然科学に秀でた人で星占いもしていました。

（2）星を見たので、拝みに来ました。

この博士たちは、なぜエルサレムに来たのでしょうか。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおられますか。私たちは、でその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました」と言っています。

星を見て来たと言うのですが、その星は、ユダヤ人の王としてお生まれになった方の星であるということです。

なぜ、星とユダヤ人の王の誕生が結びついたのでのでしょうか。その時

より、数百年前、ユダヤ人たちは、アッシリヤ、バビロンへと捕らえ移されました。それによって、その地にユダヤ人の信仰が伝わりました。博士たちは、もちろんそのことを知っていたはずです。

(3) どこにお出でになりますか。

「星を見て来た」というのは、星という自然が神を啓示する役割を果たすことを示しています。詩篇の記者は、天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる」と言いました(19:1)。民数記には「ヤコブから一つの星が進み出る」(24:17)とありますので、それとの関係で、「救い主出現の星」と考えたのかもしれませんが。

自然(被造物)は、神を啓示します。これを神学では、「神の一般啓示」と言います。

適用： 私たちも、夜に星を見、昼に山や木や花や動物を見て、神の存在を思うことがあります。

しかし、一般啓示には限界があります。博士たちも、エルサレムまでは来ましたがそれ以上のことは分かりませんでした。

2. 神のみことば(聖書)の預言・特別啓示(5)。

一般啓示の不十分なところを補うために神様は、神のみことばである聖書を残してくださったのです。聖書は、「聖霊に導かれた人々の語った神のことば」です。聖書によって、神について、人間について、救いについて、初めて知ることができるのです。

博士たちから聞かれても分からなかったヘロデ王は、祭司長たち、学者たちをみな集めて問いました。

(1) 預言者によってこう書かれています(5)。

彼らが頼りにしたのは、「預言者」でした。彼らは、預言者のことばは神のことばであり、絶対に信頼できると考えていたからです。

(2) ユダヤのベツレヘムです。

彼らは旧約の預言者ミカの預言を引用し、「イスラエルを治める支配者がベツレヘムから出る」ことをはっきり答えました(弥5:2)。

(3) 一般啓示と特殊啓示による神の導き。

博士たちが、幼子に会うためには、星の導きと、聖書のみことばが必要でした。

適用： 私たちも、この二つによってイエス様に出会います。自然を見て神を知ろうと思った人もいるでしょう。クリスチャンを見て、あるいはその人に誘われたのがきっかけという人もいるでしょう。

でも、それだけではイエス様にお会いすることは出来ません。聖書に出会い、聖書のみことばを聞かなければなりません。自分で聖書を読むか、教会に来て、聖書の解き明かしを聞いて初めて、私たちはイエス様に出会うのです。

3. 救い主に会い、礼拝する（11）。

星はさらに博士たちを幼子のいる家にまで導きました。

（1）幼子を見、ひれ伏して拝んだ。

博士たちは、幼子を見たときに、礼拝しました。それは、彼らがこの幼子をユダヤ人の王以上のお方として知っていたことを示しています。彼らは、この幼子を「メシヤ」、「世の救い主」として信じたからこそ、「拝んだ」のです。

適用： 私たちは、イエス・キリストをどのような方を信じ、告白しているでしょうか。ただ、自分を助けてくれる方、守ってくれる方くらいにしか思っていないのでしょうか。

それとも、「神の御子、キリスト」としてでしょうか。

そうすれば、この博士たちのように「拝む」ことでしょうか。主を礼拝することは、クリスチャンにとって、最も大切なことです。イエス・キリストを拝む。これが私たちの生活の基本になっているでしょうか。

（2）贈り物をささげた。

博士たちは、礼拝したときに、贈り物をささげました。

黄金は、王様に相応しいささげものであり、幼子が王であることを告白しているのです。

黄金は、私たちが「財」（お金）をささげることの象徴でもあります。

乳香は、祭司に相應しいささげものです。祭司は、神殿で礼拝といけにえをささげる時に、乳香を用いました。

香は、祈りの象徴でもありますから、乳香は、私たちの祈りの象徴でもあります。

没薬は、死体に塗るために用いました。これは、幼子の死のためのささげものでした。博士たちは、知ってか、知らずしてか、イエス様の死の備えをしていたのです。

没薬は、薬ですから、「癒し」の象徴でもあります。イエス・キリストこそ、癒し主、救い主です。

適用： 私たちも、私たちのために死んでくださったイエス・キリストのために、自分自身をささげます。

イエス・キリストの救いのみわざを人々に伝える者になりましょう。

4. すべての人を照らすまことの光が世に来た(ヨハ1:9)。

ユダヤ人でない東方の博士たちが来たことは、ユダヤ人の王として生まれた方が、ユダヤ人だけでなく、すべての人々の王であり、すべての人々に救いの道が開かれたことをも教えています。イエス・キリストは、すべての人を照らすまことの光としておいでになったのです。ですから、全世界の、すべての人々の救い主なのです。

結論

東方の博士たちは、星に導かれ、聖書のみことばによって、救い主にお会いすることが出来ました。私たちも、今日、イエス様にお会いすることが出来ます。

このクリスマスの時に、イエス・キリストをあなたの救い主として信じ、受け入れましょう。

イエス様を信じ、受け入れたなら、主を礼拝しましょう。そして救い主にふさわしいささげものをささげましょう。

財をささげましょう。祈りをささげましょう。いやしのことばを人々に伝えましょう。

イエス・キリストをあなたの救い主として信じるなら、今日、あなたは救われ、神ものとなり、神の国の一員になるのです。